Picturesque Diorama
アイセルスタイン
IJsselstein

Dutch diorama.

"IJsselstein" by Peter Dillen

Presented by KATO

How To
Picturesque Diorama
アイセルスタイン
Jsselstein

その場で見て、体験すること。
“Ijsselstein”はジオラマ造りの奥深さ、楽しさを
教えてくれます。

ジオラマはアクリルで塗装されており、コエッコエックの絵と同じ色の絵の具を使用しています。
奥行き効果を強調するために、ピーターさんは光の効果を一貫させました。
つまり、日光が当たっているところは明るい色が塗られ、影の部分は暗い色で塗られています。
この効果はジオラマに新鮮な視点を与えました。
彼はまた球体視点の技術を駆使しました。
風景の中で遠く離れているものはすべて淡く、色はほんのりと漂白され、
霧がかっているような効果を生んでいます。
これらの方法を組み合わせることで大きな効果が得られ、ジオラマは実際の50cmという奥行き
よりもはるかに深淵に感じさせます。
全体の幅は100cmです。ジオラマは、錯視効果を高めるために、額縁のなかに飾られました。
このジオラマの素晴らしさを最大限に体験するためには、実際にそばで見る必要があります。
写真では決して伝える事のできない感動、驚きを与えてくれるジオラマが、
世界中にはまだたくさん存在しているのだと思うと、とてもワクワクしますね。
これからもKATOは、世界の魅力的なジオラマ文化をご紹介していきたいと思います。

◉この冊子で使用した写真・文章は、PECO社発行の
「Continental Modeller」2017年11月号よりご提供いただいた
データをもとにKATOでアレンジ致しました。

ピーター・ディレンさんのホームページ
http://www.peterdillen.nl/index.html
これまで製作されたジオラマの
動画などご覧いただけます。

Presented by KATO

冊子製作: 技術開発部(技)開発商店

How To
Picturesque Diorama
アイセルスタイン
Jsselstein

ないはずの「奥行き」「空気感」を作り出すことで、ジオラマには生命(いのち)が芽生えます。

当初はこの街で実際に使われていた馬車鉄道を作ろうとしていて、ピーターさんはこのためにとても複雑なシステムを構築していました。

そのシステムそのものはうまくいっていましたが、馬と客車は強制遠近法に則ってデザインされていたので、一方向にしか走らせることができませんでした。またとてもゆっくりとした動きしかできなかったので、ジオラマの裏側を回って帰ってくるまでに、時間がかかりすぎました。
遠近法のパースで作られたジオラマの中では、ターンテーブルなどを使った反転手段も使えませんでした。
モーターの位置の問題もあり、課題が多いこのプロジェクトは1年の間進展できませんでした。
2015年の初め、Valkenswaardクラブの創立25周年のためにジオラマを完成させることを求められたとき、
ピーターさんは馬車鉄道を諦めて蒸気の軽便鉄道を走らせるべきだと決意しました。

ストラクチャーの表面には、奥の消失点に向かって引かれたパースに沿った立体的な模様がつけられています。
窓枠、屋根瓦はブナ材製です。
一番手前の家は1:30で建てられており、後ろにいくにつれて徐々に1:200になります。
このテクニック上の問題点(遠近法に則って制作されているので)は、壁、石、タイル、または窓フレームを四角にすることができないことです。
これは解決するのがとても難しい事のひとつでした。

前景にあるボートも正確に歪んで作られています。
手前には古いウォーターポンプがあり、そこでは、子供が母親のために水でバケツを運んでいます。
それらの彫像は、古い巨匠の絵に基づいています。それらも遠近法によって歪んだ作りをしています。

上から見た図。まるで舞台の書き割りのよう。

実際以上の奥行きを表現するため
あらゆるものが奥の消失点に向かって歪められています。

街並みは主にごく普通のダンボールから作られています。
表面には石壁の表現をつけるためパテが塗りつけられ、
荒い表現になっています。

ピーターさんの“Ijsselstein”にインスピレーションを与えた絵画、
Willem Koekkoek の“Zonnig stadsgrachtje in IJsselstein.”

このまるで絵画のようなジオラマの製作者は、プロの画家である
オランダのピーター・ディレンさんです。ピーターさんの趣味はジオラマ製作。
この”IJsselstein“(アイゼルスタイン)と呼ばれる作品は、彼の画家としてのセンスと
これまでいくつかの鉄道ジオラマ作品を作った経験が融合され、完成しました。

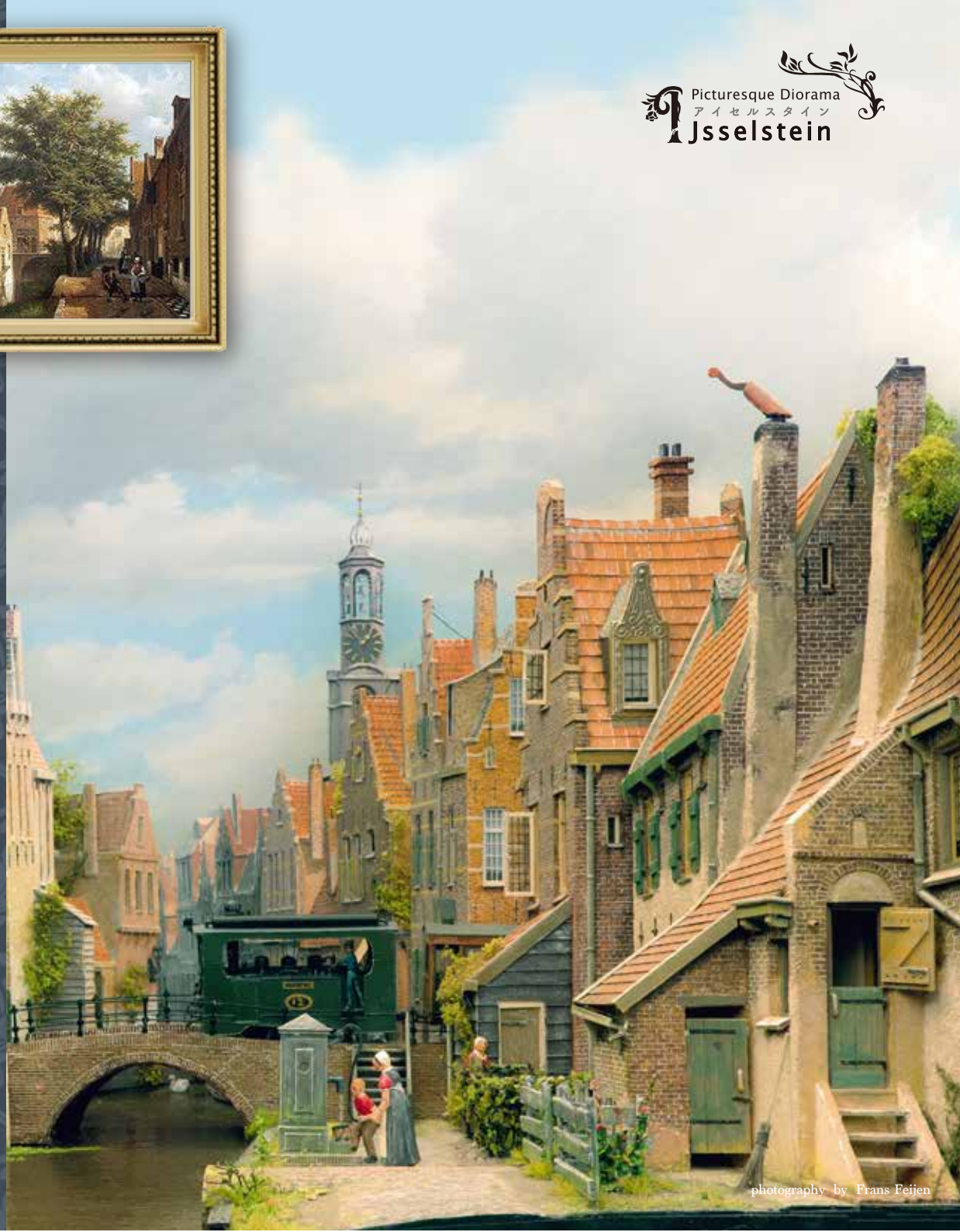
ピーターさんはこれまでは同じクラブのハンスさんとヒューゴさんの二人の力を借りて、
3人でジオラマを作ってきました。
ピーターさんが画家の視点で風景をデザインし、ハンスさんが車両を担当し、
ヒューゴさんが建物を担当しました。
その3人の共作で最初に作られた“Veldhoven 1935”はメッヘレンのイベントで賞を
受けました。
次作の“B.A.Bodil”はメッヘレン、ゲンク、OntraXS!、そしてバーミンガムのイベントで
最優秀賞を受賞しました。
これらの2つのジオラマは、ヨーロッパ各地での展示会でも大変な注目を集めました。

そしたピーターさんは、“Veldhoven 1935”と“B.A.Bodil”で培った経験を活かした
新しいチャレンジに取り組むことにしました。
そこで画家でもある彼は、絵のように見えるジオラマを作ることに決めました。
今回は1人で製作したので、オランダの画家、ウィレム・アン・ヘルマナス・コエッコエック
(1900年頃)の絵画をジオラマ化することに集中することができました。これはジオラマの
テーマとして非常に興味深いものでした。
実際の絵画”IJsselstein“にはない蒸気の軽便鉄道と、作品の持つ時代感の融合を
ピーターさんはアーティストのセンスで見事に成し遂げました。

Veldhoven 1935

B.A.Bodil

Picturesque Diorama
アイセルスタイン
Ijsselstein



photography by Frans Feijen